

平成24年3月2日

東京都小学校生活科・総合的な学習教育研究会

発行人 茂木三枝

編集人 長谷川かほる

事務局 東京都荒川区立汐入小学校

東京都荒川区南千住8-2-3

☎ 03-3807-2683

## 本年度の活動を振り返って

東京都小学校生活科・総合的な学習教育研究会

会長 茂木三枝

(江東区立北砂小学校長)

新学習指導要領の完全実施となった今年度は、7月には国立教育政策研究所から「総合的な学習の時間における評価方法等の工夫改善のための参考資料」が示され、全教科・領域についての評価資料が示されました。指導と評価についても一層の改善が図られることが期待されています。

各学校においては、生活科・総合的な学習の時間においても、学習指導要領改訂の趣旨を生かした実践が行われているところです。生活科では、体験活動を重視し、気づきの質を高める実践を行っています。今年度の事業部によるアンケート調査によると、言語活動を生活科の指導計画に位置付けているところは約半数ですが、実施した7割強の学校では、国語科との合科・関連を考えた指導により、表現力の向上が期待されると答えています。気づきの質を高める指導においても、言語活動を重視することが必要です。総合的な学習の時間では、探究的、協同的な学習を目指し、実践を積み重ねています。探究的な学習のモデルが示されたことにより、多くの教員は授業を展開するに当たり、課題設定や整理・分析の重要性を一層実感していることと思います。探究的・協同的な学習の授業のイメージをもつことが必要です。

さて、本研究会では、生活科・総合的な学習の課題について研究を深め、その成果を広める活動を行ってきました。

### <研究を深める>

昨年度の関東地区大会の研究テーマ「未来を拓く子供たち～ひろがれ確かな『学び』の創造」を引き継ぎ、来年度の全国大会に向けて着々と進めています。「豊かな学び」「気づき・思考」「人」「生き方」の4

つの視点をもとに8つの分科会が各分科会のテーマを設定し、研究を深めるとともに、その成果をいかにわかりやすく多くの教員の実践に役立ててもらおうかという二つの面から迫っています。

### <若い教員を育てる>

経験の浅い教員にとって、生活科や総合的な学習の時間の授業を行う際に、授業のイメージをもつことが必要になります。そこで、6月と11月に総合的な学習の時間の授業を公開し、夏季研究会では生活科の授業づくりについての研修会を行いました。また、基礎講座により、日々の授業の悩みについて指導を受ける機会をもつようにしました。さらには、年2回の施設見学により、動物についての理解を深め、教材研究に役立たせることができました。3年目を迎えた本研究会の研究員制度では、授業実践を通して、力量を高めることができました。

### <全国大会に向けて>

来年度は全国大会を東京で開催します。会場校として新宿区立大久保小学校、目黒区立緑ヶ丘小学校、渋谷区立猿楽小学校、練馬区立石神井小学校の4校が会場校となります。会場校と本研究会の連携を図り、進めています。冬季研究会では、分科会及び会場校の研究について理解する機会をもちました。全国大会には、会場校となる区の先生方にもご協力いただき、東京都の先生方の多くの参加をお願いします。

終わりにになりましたが、本研究会にご指導いただきました文部科学省教科調査官の田村学先生に厚くお礼申し上げます。また、本研究会を支えてくださった役員の皆様、研究推進委員、顧問の先生方に心から感謝申し上げます。

**自己の成長に気付く  
学習活動の工夫**  
— 幼保・小の交流の授業づくりを通して —  
目黒区立八雲小学校 佐藤 育子

### 1. 研究主題について

本分科会では、研究のねらいを「スタートカリキュラムを経験して学校生活を自信をもって過ごすようになった児童が、幼保・小の交流を通して自己の成長に気付いていくには、どのような学習が有効か、また、どのような成長の姿が見取れるかについて探る」と設定し、研究に取り組んだ。

### 2. 研究の内容

#### (1) 「自己の成長」の捉え方

「自己の成長」とは、「児童が自分のよさや自分の変容・可能性に気付くこと」と定義し、園児との交流を通して以下のことを認識することと捉えた。

- 自分が大きくなったこと
- 自分ができるようになったこと
- 役割が増えたこと

#### (2) 研究主題に迫るための手立て

交流の活動を段階ごとに分け、児童に気付かせる方法を探る。

- |       |               |
|-------|---------------|
| ステージⅠ | ステップ1 関心をもつ   |
|       | ステップ2 かかわりをもつ |
|       | ステップ3 振り返る    |

- |       |                |
|-------|----------------|
| ステージⅡ | ステップ1 関心をもつ    |
|       | ステップ2 かかわりを深める |
|       | ステップ3 振り返る     |

ステップを進めていくことで、自分のよさや成長に気付くようになって考えた。

### 3. 考察

実際に活動計画を立て、園児との交流活動を実践した。

〔成果〕交流の活動をステップの3段階（関心をもつ・かかわりをもつ・振り返る）として展開したことで、児童にとって活動が明確になり充実した活動となった。それにより、児童が自分のよさに気付いたり、かかわることの喜びに気付いたりして、自分への気付きの質が高まった。

〔課題〕ステージⅡでは、ステージⅠでもった児童の思いや願いを実現させる活動を計画し、児童と園児のかかわりを深め、児童が自己の成長の気付きの質を高めていくための学習計画を工夫していく。

**豊かな体験を通して、  
言葉での表現を深める指導の工夫**  
— 生き物単元の実践を通して —

足立区立弘道小学校 小辻 美智恵

### 1. 研究主題について

子どもは、体験活動と表現活動とを何度も行き来しながら互いに高め合うことで、学びを豊かにしていく。生き物単元の実践を通して、感動や驚きを感じる豊かな体験と、それらを言葉で表現しながら、活動を振り返り考えることを繰り返して学びを豊かにする指導を探っていく。

### 2. 研究の内容

研究主題に迫るための手立て



#### 実践「わたしのダンゴムシ」(1年生)

子どもと教師の実態を踏まえて、1年生では、学級全員で同じ生き物を一人一人が飼い、2年生では、それぞれの子どもが好きな生き物を飼うという考え方に基づいて、本単元ではダンゴムシを学習対象として選択した。

### 3. 考察

- 体験活動中の子どもの表現が、教師の問い返しや言葉かけによって、どのように深まり、それに伴って体験活動が高まっていくのかが分かった。
- 書きためたカードや作品を読み返すことで、子どもは気付きを関連付け、表現を深めていくことが分かった。
- 手立てをより一層焦点化し、誰でも活用が可能な形に整理する必要がある。
- 2年間を見通した生き物単元の中で、子どもの体験と表現を高め合う指導の在り方について考える必要がある。

## 人とのかかわりを通して 自分の思いを表現できる学習活動の工夫

渋谷区立山谷小学校 中川 多恵子

### 1. 研究主題について

人とのかかわりを通じた表現について研究してきた本分科会は、今年度、生活科の中では人とのかかわりの場面が少ないとされてきた「飼育栽培活動」の学習に着目し、多くのかかわりを通して学びを広げていく学習活動について追求した。

### 2. 研究の内容

#### (1) 手立て

①人とのかかわりを重視した学習活動の工夫  
〈栽培活動におけるグルーピングの有効性〉

1年生と2年生の計画的・意図的なグルーピング。だれとどう組ませるかによって、一人一人の学びの内容や質が違ってくる。それぞれの学習のめあてを明確にしたうえで、学習に向かうことが大切である。

②多様な表現活動を支える豊かな体験  
〈飼育栽培活動における段階を追ったかかわり〉

段階を追ってかかわりが深まっていく姿をとらえ、体験的な学習の展開を工夫する。

③かかわりを深める教師の働きかけ  
〈飼育栽培活動における教師の働きかけ〉

気付きと情意的なかかわりの深まりをとらえ、次の学びの段階に結び付く言葉かけ、働きかけをする。

#### (2) 実践事例

○情意面を意識してかかわる相手を設定

第1学年

「大きくなあれーだいすきあさがおー」

入学したばかりの1年生の安心感が増し、進級した2年生の自分自身への自信につながる。

○目的を意識してかかわる相手を設定

第1・2学年

「さあ育てるぞ。みそしるパーティーのやさい」

経験や知識を共有しながら一緒に野菜を育てることで、活動への意欲と気付きの質の向上につながる。

### 3. 考察

○飼育栽培活動におけるかかわりの有効性を子供の姿から見取ることができた。

○ねらいに沿ってかかわる相手を意図的に設定することで、子供のかかわりが深まり、自信をもって自分の思いを表現する姿が見られた。

○今後も継続して飼育栽培活動におけるかかわりの有効性を追究していく。

## 児童の思考をうながす学習指導の工夫

葛飾区立堀切小学校 武藤 末千子

### 1. 研究主題について

本分科会では、「思考」に視点をおき、生活科の研究を進めてきた。「思考」とは、児童が活動や体験を通して多くの情報を得て、その情報を見付けたり例えたり、比べたりしながら整理するような言語活動を通して、対象に対する気付きや、思いや願いが変容していく過程であると考えた。「思考」をうながす学習活動を充実させたり、児童の「思考」の過程を見取り指導に生かしたりすることで、気付きの質も高めていくことができると考える。

### 2. 研究の内容

[ねらい]

低学年の児童においては、活動や体験の中で、児童は、繰り返し他者の思いや考えに触れたり、他者からの働きかけを受けたりすることによって、思考が深まっていくものと考えた。このような過程を通して児童の思考が深まっていく姿を分析・検証する。また、思考を深めていくための指導や改善の方法を見出し、有効的な学習指導の工夫を探る。

[手立て]

(1) 思考と気付きの関連を明らかにした

指導計画の作成

・ 国立教育政策所作成の評価規準から、思考がどのような気付きへと繋がっていくのかを分析する。

(2) 思考をうながすための指導の工夫

・ 没頭できる活動の工夫（個の活動の充実）  
・ かかわり合う活動の工夫（集団の活動の充実・教師の声掛けの工夫）  
・ 振り返り活動の工夫（振り返りの方法やカードの書かせ方の工夫）

(2) 思考の見取りと分析

・ 学習過程のどの場面で誰とどのようにかかわり思考が変容していったかを分析し、有効な手立てを探っていく。

### 3. 考察

○思考が深まった姿とは、実際にどのような姿なのかを、授業実践を通して分析することができた。

○今後は、思考と気付きの関連を明らかにできるような評価規準の分析の充実と、指導の工夫を図り、実際の授業に生かしていく。

## 子どもが意欲的に学習活動を進め、 学びの質を高めていく指導の工夫

目黒区立鳥森小学校 八木 美香

### 1. 研究主題について

本会が設定する「学びを確かなものにするための視点」から、本分科会が取り組む『豊かな学び』のとらえについて

- ・子どもが対象と繰り返しかわる。
- ・自分にとって切実な課題を見付ける。
- ・自分なりの考えをもち、意志決定を行う。
- ・問題解決に本気になって取り組む。
- ・様々な場面で味わう満足感や達成感を原動力に、学習活動を進めていく。

上記の学習活動後に、子どもは「社会に対する見方や考え方、価値観が変わる状態」になる。

### 2. 研究の内容

子ども自ら意欲的に学習活動を進めようとする姿までの過程

#### 第1段階:学習対象にかかわり始める段階

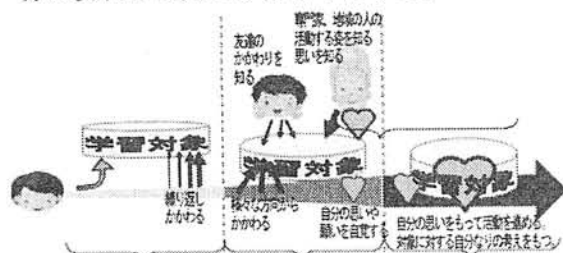
- ・学習対象への出会わせ方を工夫する。
- ・学習対象に繰り返しかわり、魅力やあこがれを感じるができるようにする。

#### 第2段階:生活の中に位置付く段階

- ・子どもが課題を見付け、友達と情報交換するなどして学習活動を繰り返すことができるようにする。
- ・子どもが自分なりの考えをもって解決に取り組む、自分の活動内容や方法に自信もつことができるようにする。
- ・ゲストティーチャーとの出会い、新しい情報を得ることで、子どもに揺さぶりがかかる状況をつくる。

#### 第3段階:問題解決に本気で取り組もうとする段階

- ・課題が再設定され、本気で取り組む子ども学習活動を支える。
- ・学習活動を振り返り、見方や感じ方について自分の変化を自覚できるようにする。



学習活動の経過 第1段階 第2段階 第3段階

### 3. 考察

子どもが本気になるまでの学習過程を整理したことで、子どもの課題設定の重要性が見えてきた。

## 子どもが協同的に学ぶよさを実感する 学習活動の工夫 — 話し合い活動を通して —

足立区立東伊興小学校 堀 英理子

### 1. 研究主題について

総合的な学習の時間においては他者と協同して課題を解決していくことが不可欠である。また協同的に学ぶことは探究的な学習として児童の学びの質を高めることにもつながっていく。本分科会では全国大会における研究の視点『人』を受け、他者と協同的に学ぶには話し合い活動は欠かすことができないと考えこの研究主題を設定した。

### 2. 研究の内容

- (1) 探究的な学習過程で、協同的に学ぶよさを実感する話し合い活動を明らかにする。

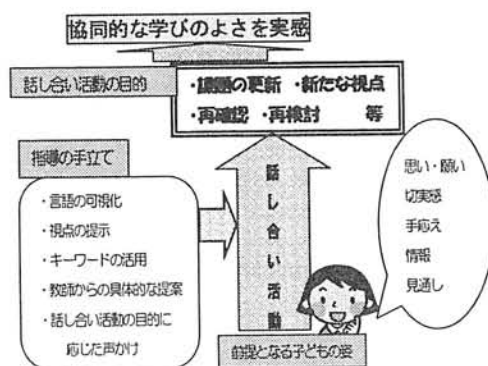
本研究で考えた『協同的に学び合うよさ』を具体的にすると次のようになる。

- A 自分の存在・特徴に気付く、B 自分の変容や成長に気付く、C 相手の存在・特徴に気付く、D 互いに学び合うよさに気付く

これらのよさを実感させるために探究的な学習活動の中の『まとめ・表現』から『次の課題設定・更新』場面での話し合い活動を取り上げた。

- (2) 探究的な学習過程においてよさを実感する話し合い活動の手立てを明らかにする。

協同的な学びのよさを実感する話し合い活動の手立てを次の図のように整理した。



### 3. 考察

目的や指導の手立てをはっきりさせて話し合い活動を進めたことにより、児童が協同的に学ぶよさを実感することができた。今後は児童の変容や教師の指導の手立て等を記録する方法を工夫すること、それぞれの過程でどのような指導をすればよいかを明らかにする必要がある。

## 探究的な学習過程における 「整理分析」段階の指導の工夫 —水平思考的な話し合いを生む授業づくり—

八王子市立第四小学校 荒井 雄一

### 1. 研究主題について

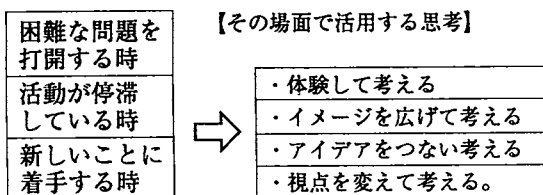
昨年度までの研究で、論理的な思考が育った一方で、新たな考えをもって思考する子供の姿が見えてきた。こうした子供の姿が探究的な学習の質を高め、豊かな学びの姿へとつながると考え、今年度は、論理的な思考に加え、水平思考的な話し合いに着目し、研究のねらいを児童が自ら新たな視点や発想を生み出す手立てを明らかにしていくこととした。

### 2. 研究の内容

#### ①基礎研究

- ・本分科会がめざす水平思考的な話し合いとは…児童にとって切実な問題状況を打開するために、新たな始点や新たな発想を生み出したり他者とのアイデアをつないで考えたりする話し合い活動
- ・新たな視点や発想を生み出すことが必要な場面と、その時に活用する思考（モデル授業の分析より）

【新たな視点や発想が必要な場面】



#### ②実践を通して

以上のような水平思考的な話し合いとこれまで研究を重ねてきた思考ツールとの関連を図りながら、具体的な実践の中で検証した。「視点を変えて考えた」実践と「アイデアをつないで考えた」実践について、ビデオ分析や、児童の発言やワークシートをもとに検証を重ねた。

### 3. 考察

教師側の成果として、問題状況に応じて、それを打破するために、どのような水平思考的な話し合いが有効なのか実践を通して検証することができた。児童側としては、水平思考的な話し合いをすることで、児童の思考活動がすすんでいる姿が見られた。

来年度も新たな視点を生むための思考活動の具体的な姿について授業を行いながら検証していく。さらに場面に応じたツールの使い方や、構造的な板書の工夫、視点の与え方など、教師の役割をより具体的に探っていききたい。

## 「自己の生き方」に結びつく 単元計画とその指導

江東区立水神小学校 櫻田 真紀

### 1. 研究主題について

本分科会のこれまでの研究成果から、「自己の生き方」を考えられるようにするためには

- 単元の終末だけでなく、単元を通して考える
- 自己評価の過程で考える

の2つの指導改善の方策が分かっている。これらを踏まえ、より具体的に、単元計画のレベルでの手立てを考えることにした。

### 2. 研究の内容

#### (1) 学習事項の設定の工夫

学習課題における学習事項の中に「自己の生き方」に結びつく学習事項を設定し、検証を進める。

#### (2) 学習活動の工夫

それぞれの学習過程において、「自己の生き方」に結びつく学習活動を工夫することにした。

- つかむ過程では、「自己の生き方」に結びつく学習事項を意識して、学習対象と出合わせる。
- 追究する過程では、「学習のテーマ」づくりを行う。これを軸に具体的な活動を子ども自身が考え、展開していくようにする。
- 生かす過程では、「学習のテーマ」に沿って単元を振り返り成長や変容を実感できるようにする。

### 3. 考察

- 自己の生き方に結びつく学習事項を設定し、自己の生き方をどのように考えているのかという視点で比較・分類する中で、よりよい単元計画や指導の工夫をしていきたい。
- 学習のテーマづくりに時間がかかりすぎ、子どもの意欲が減退するといった課題が見出されている。効率的に学習のテーマづくりが行えるような指導方法を確立していく。
- 自己の生き方に結びつく学習事項及びそれと関連性のある教育活動を洗い出すこと、意図的に指導時期を合わせたり、重点的な指導を意識したりすることなどの視点を基に、関連的な指導を行えるようにしていきたい。

## 児童一人一人が 自分と向き合う授業づくり

足立区立弘道小学校 小島 雄貴

### 1. 研究主題について

研究員がこれまでの授業実践を振り返り、課題を分析した結果、児童がさらに主体的に学習に取り組めるような指導の工夫や改善が必要であることがわかった。そのためには、児童が思いや願いをもち、対象に没頭できるようにすることが大切である。また、常に児童一人ひとりが追究対象や人々とのかわりを明確にもてるよう学習活動を工夫していきたいと考えた。とりわけ児童が自分自身について気付き、自己について考えることができることを目指して、上記研究主題を考えた。

### 2. 研究の内容と方法

#### (1) 研究の内容

児童一人ひとりが自分と向き合うことができるように、授業の手立てを以下のように設定した。

##### 手立てA 個別課題の明確化

- ・ 共通体験の位置付け
- ・ 発問の吟味
- ・ 教師の児童一人一人の把握とかわり

##### 手立てB 学び合いの活性化

- ・ 話し合いの設定
- ・ 学び合う環境づくり(掲示物、グループ形態など)
- ・ 思考ツールの活用

##### 手立てC 振り返りの充実

- ・ 振り返りのワークシートの活用
- ・ 単元の終末における振り返りの時間の設定
- ・ 児童の記録の整理

#### (2) 研究方法

授業実践に生かせるように、港区立西南小学校の野口徹先生、江東区立北砂小学校の永野むつみ先生の授業を参観させていただいた。授業を参観し学んだことを踏まえ、また研究員担当校長先生からの指導をもとに研究員で話し合い、自分たちの課題と目指す児童像、児童の実態を話し合った。そこから研究主題や授業の手立てなどを設定し、さらに研究員3名がそれぞれの授業の手立てに沿って授業実践し、検証を行った。

### 3. 実践研究の内容

#### 実践研究 1 (総合的な学習の時間)

単元名 「不思議な昆虫カイコ」(全28時間)

町田市立七国山小学校 池田 正治

#### 実践研究 2 (総合的な学習の時間)

単元名 「よみがえれ!綾瀬川」(全30時間)

足立区立弘道小学校 小島 雄貴

#### 実践研究 3 (生活科)

単元名 「作って ためして」

内容(6)に関連 (全18時間)

文京区立昭和小学校 保戸田 めぐみ

### 4. 考 察

#### A 個別課題の明確化

##### 【成果】

単元の適切な時期を選び、専門家の方との関わりやクラスでの一斉作業といった共通の学習活動の場を設定した。この活動によって各々の児童のめあてや目標が明確になり、探究的な活動や意識・思考の広がりへとつながった。

##### 【課題】

ゲストティーチャーからの話をどのように授業に取り入れていくのか、効果的な活用について今後も検討していく。

#### B 学び合いの活性化

##### 【成果】

他者の考えを聞き、話し合うことで自分の考えを客観的に把握することができた。また、意図的に環境設定することで、自ら学び合う姿が見られた。

##### 【課題】

発問の吟味については手立てが不十分だった。今後さらに検討していく必要がある。

さらに単元を見通して話し合いや思考ツールをどのタイミングでどのような方法で活用したらよいか、今後も検討していく。

#### C 振り返りの充実

##### 【成果】

児童が記入したワークシートをポートフォリオとしてまとめておき、後に児童が自分の活動を振り返るのに役立てることができた。活動を通して、児童が自分自身の作品や気付きの変化に目を向ける手立てとなった。

##### 【課題】

ポートフォリオの更なる活用方法を考え、振り返りの充実に役立てるよう検討していく。

# 調査研究の概要

事業部副部長 服部 みどり  
(大田区立西六郷小学校長)

本会では、今日的な課題や昨年度の調査項目を一部経年調査し、研究・分析することを通して学習の改善に生かしていきたいと考えている。(回収率：生活科60% 総合的な学習の時間59%)

## 《生活科》(22項目)

- 幼稚園・保育所との連携は79%の学校で行われている。複数回の連携を実施している学校が増え、継続して連携する価値が認識されてきた結果だと考えられる。参加型の取り組みが多い。
- スタートカリキュラムを作成している学校は昨年度より3%増えた。少しずつ必要性が認識されてきているが、作成の予定なしも64%と未だ高い。本会で作成・配付した「幼児とのなめらかな接続」を参考に考えてほしい。本会では、今後も実践事例や良さを示していく。
- 地域の様々な人とかかわる活動は92%の学校で行われており、定着してきたことが窺える。打ち合わせ時間の確保、活動時間の設定等の難しい面もあるが、地域の人とかかわることによる子どもの変化を92%の学校が感じていることから、かかわる活動の大切さや効果についての理解も進んでいると考えられる。
- 96%の学校で、子供たちの語彙が足りないことに問題意識をもち、語彙を増やす取り組みを行っている。国語教育と読書活動の充実、グループやペアによる話し合い活動等を一層推進していくことが重要だと考えられる。
- 学習活動が体験だけで終わっていると思っている学校が、昨年度とほぼ同じ13%である。生活科の趣旨を理解し活動を体験だけで終わらせないようにすることが大切なので、実践的な研究を重ね、情報を提供していきたい。
- 言語活動を位置づけた生活科の指導計画を作成済みまたは作成予定の学校は合わせて52%である。作成している学校の71%が国語科の指導計画との関連を図っており、7%の学校で語彙の増加による表現力の向上が期待されている。言語

活動の位置付け、国語科の指導計画との関連について考えた指導計画例や実践例等、資料を提供していきたい。

- 子どもたちの育ちは、「自然との触れ合い」「遊びの工夫」で顕著だと考えられる。しかし、「自然と触れ合うことはできるが季節の移り変わりに気づき生活に生かしていくことは不十分である」等、課題がある。5つの教科目標の要素を意識して活動していく必要があると思われる。
- 生活科の評価は47%の学校が記述式で行っている。児童の学習上・生活上の自立、精神的な自立の姿を見とった評価ができるよう、観点別評価+記述評価など、生活科の観点を意識した評価を行うことが大切だと考えられる。

## 《総合的な学習の時間》(5項目)

- 各学校で重視している内容は、地域や学校の特徴に応じた課題が多い。取り組み例を紹介できるとよいと考えている。数は少ないが、移動教室の準備や長い期間の水泳指導等、総合的な学習では位置づかない内容を組み込んでいる学校がある。再考していく必要がある。実践例等の情報を提供していきたい。
- 総合的な学習の時間で取り扱っている領域は、昨年同様「環境」「地域」「福祉・健康」「情報」「国際理解」が多い。中でも「福祉・健康」は、昨年度より約8%増加した。「キャリア教育」については、昨年度の28%から35%に増加した。
- 評価については、「発表や話し合い、活動の状況等の観察による評価」「ワークシート、ノート等の制作物による評価」が95%と高い割合を示している。「評価カードや学習記録などによる自己評価」は、昨年度より8%増えている。「信頼される評価方法」「多様な評価」「学習状況の過程を評価する方法」が意識されてきている。今後は、多様な評価の組み合わせ例を示していく必要があると考えられる。

# 本年度の研究のまとめ

研究部長 芳賀亮作  
(江東区立水神小学校長)

## 1. 研究主題

「未来を拓く子どもたち

～ひろがれ！確かな『学び』の創造～」

## 2. 研究の概要

本年度は、平成24年11月1・2日実施の全国大会・東京大会を見据え、理論構成委員会が昨年度までの分科会の研究を整理し、新たな4つの「研究の視点」を設定しました。「豊かな学び」「思考」「人」「自分」の研究の視点を構造化し、各研究分科会がそれぞれの視点を受け、分科会研究主題を設定し研究を進めました。

「夏季・冬季研究会」「研究発表会」では、授業公開や授業づくり研修会、模擬授業やポスターセッションによる実践紹介及び交流などを行いました。また、本年度は関東地区茨木大会や全国大会大阪大会で3つの研究分科会が研究発表を行いました。また、本研究会研究員3名の研究を推進し支援しました。

## 3. 研究の経過

### (1) 研究推進委員会・発足の会【4月23日(土)】

会場 江東区立水神小学校

内容 ・「全体の研究の視点」と分科会が担当する研究の視点の提案  
・研究の年間計画の確認  
・分科会世話人紹介と分科会内の役割分担分科会年間計画作成

### (2) 研究推進委員会全体会【5月12日(木)】

会場 江東区立北砂小学校

本年度の研究趣旨説明、委任状伝達

講演 「新学習指導要領具体化の要点  
～生活科・総合的な学習の時間における要点～」

講師 文部科学省教科調査官 田村学先生

### (3) 第1回研究発表会【6月28日(火)】

会場 港区立青南小学校

授業 第3学年：総合的な学習の時間

「青南生き物館をつくろう～地域の人と協力して『虫』や『花』などに親しめる『生き物館』をつくってみよう～」

授業者 同校 野口 徹 主幹教諭

演題 「新学習指導要領で目指す『総合的な学習の時間』づくりの要点と具体像」

講師 文部科学省教科調査官 田村学先生

### (4) 夏季研究会【7月26日(火)・27日(水)】

会場 江東区立水神小学校

授業づくり研修会、ポスターセッション  
分科会研究、基礎講座、指導・講評等

演題 「生活科が始まり20年、総合は10年、新しいステージに向けての授業設計」

講師 文部科学省教科調査官 田村学先生

### (5) 第2回研究発表会【11月7日(月)】

会場 江東区立北砂小学校

授業 第4学年：総合的な学習の時間

「おじいちゃんおばあちゃんといっしょに」

授業者 同校 永野 むつみ 主任教諭

講演 「総合的な学習の時間の授業づくりについて」

講師 文部科学省教科調査官 田村学先生

### (6) 関東大会(茨城)【11月11日(金)】

[実践提案]

(生活科)「豊かな体験と言葉での表現を深める指導の工夫」

発表者 足立区立弘道小学校 小辻美智恵主任教諭

(総合)「子どもが協同的に学ぶよさを実感する学習活動の工夫」

発表者 足立区立伊興小学校 堀 英理子主任教諭

### (7) 全国大会(大阪)【11月17日(木)・18日(金)】

[実践提案]

(総合)「子どもが意欲的に学習活動を進め、学びの質を高めていく指導の工夫」

発表者 目黒区立烏森小学校 八木 美香 教諭

### (8) 冬季研究会【1月28日(土)】

会場 江東区立水神小学校

内容 各分科会の研究経過報告・協議

指導・講評 文部科学省教科調査官 田村学先生

## 4. 今後の課題

各研究分科会は、どこも先進的な研究内容に取り組んでおり、研究の深まりを実感しています。全国大会東京大会まで約8ヶ月となり、今後は、その研究内容をいかに分かりやすくまとめ、一般化を図っていくかが求められていると言えます。